

学校通信



にしあさけ



四日市市立西朝明中学校

令和6年度 第12号
令和6年9月6日(金)

☐全国学力・学習状況調査結果を受けて

本年度の全国学力・学習状況調査の西朝明中学校の結果を受けて分析の結果をお伝えします。

<学習状況調査の結果から>

本校は論理的思考力向上推進校として2年目、またICT活用推進校として昨年度まで3年間市の指定を受け授業改善に取り組んできました。ICT(タブレット)に関する意見に関しては肯定的な回答は全国と変わらない結果でしたが、「当てはまる」と答えた生徒は県、全国を大きく上回っていました。これは、3年間のICT推進校として研究を進めてきた成果であることがわかります。また、意見をまとめたり、課題を仲間と共に解決したりすることができるかを問う質問に対して、肯定的な意見が県、全国を上回っている結果からも、論理的思考力向上推進校としての研究を進め、実践を行ってきた結果が少しずつ見え始めています。

生活面では「朝食を毎日食べているか」、「同じ時刻に寝ているか」などと言った質問に対し、肯定的な回答が県、全国より多く、規則正しく生活を送ることができていることがわかります。また、「携帯電話やスマートフォンやコンピューターの使い方について家の人との約束を守っているか」という質問に対して半分以上の生徒が「きちんと守っている」と回答していることから家庭教育力が高く、正しい生活習慣がついていることが解ります。

学校生活に目を向けると「先生はあなたのよいところを認めてくれているか」「困りごとや不安がある時に先生や学校にいる大人にいつでも相談できているか」という質問に対しても肯定的な回答をした生徒が県、全国を上回っていました。そして「当てはまる」と回答した生徒が県、全国を大きく上回っていることから、学校と生徒の信頼関係を築くことができていることが読み取れました。その他にも「いじめはどんなことがあってもいけないこと」「自分と違う意見について考えるのは楽しい」「地域や社会をよくするために何かしてみたい」などという質問に対しても肯定的な意見が多く、心の成長もうかがえます。

しかし、「将来の夢や目標を持っているか」という質問対しては、肯定的な回答が県、全国を下回っており、自分のよさや人と関わること、人の役に立ちたいと考えている本校の生徒が様々な事に関心を持ち、自分の将来を自分で切り拓いていく力を身に付けられるように、今後も支援していく必要があると感じました。

<学力状況調査の結果から>

本年度の学力状況調査は【国語】【数学】を実施しました。

【国語】では平均値が県より2ポイント下回る結果となりました。しかし、知識・技能の分野で、言葉の特徴や使い方に関する事項と我が国の言語文化に関する事項は、県の正答率も全国の平均率も上回っています。問題別では、漢字の問題が県を3.3ポイント、全国を1.3ポイント上回り、短歌の表現技法に関する問題が県を1.1ポイント、全国1.4ポイント上回っていました。行書の書き方に関する問題も県を4.4ポイント、全国を6.0ポイントも上回っていました。さらに、表現を工夫して物語の最後の場面を書き、工夫した表現の効果を説明する問題では、書くことの分野で問題形式が記述式であるにもかかわらず、県平均を2.1も上回っていました。逆に、県や全国の正答率との差が大きかったのは、物語を書くために集めた材料を取捨選択した意図を説明したものを選ぶ問題、主張と例示との関係を捉える選択肢を選ぶ問題でした。さらに、他者の発言と結び付けて自分の考えをまとめる問題、目的に応じて必要な情報に着目して要約する問題も差があり、本校の今後の課題と考えます。このようにどの領域についても課題が残っていますが、1・2年のみえスタディチェックの結果と比較すると、知識技能の分野を中心に少しずつ力をつけてきていると考えます。また、選択式の問題の無回答率がすべて0.0であり、粘り強く解こうとする意識があるので、問題文を適切に読み解き、多面的に考え抜く力を養うことで正解を導くことができるように、論理的思考力向上を意識しながら、授業を進めていきたいと考えています。

【数学】では問題の形式が比較的解答しやすい、選択式で約4ポイント、短答式で約2ポイント県や全国の平均と比較して低いのにに対し、記述式の問題では県平均と同じ値を示しています。また、無回答率を見ると、選択式ではほぼ0% (= 答えを記入した)、記述式に関しても全国と比べて低い(頑張っただけで答えようとしている)状態にあります。このことから本校の生徒は粘り強く問題に取り組み、思考を働かせ答えを導き出そうとする姿が優れていると考えられます。しかし、学習指導要領の領域別で見ると、全ての領域で県、全国の平均正答率を下回っており、関数においては4ポイント近く下回っています。評価の観点で見ると知識・技能が3ポイント近く下回っているのに対し、思考・判断・表現では県・全国とほぼ同じ値を示しています。このことから論理的思考力向上に取り組んできた成果は見られます。問題を細かく見ていくと、よくあるミスに気づけず解答している生徒が多いことや、基礎学力定着に向けて繰り返し練習を行ってきたが、問題のパターンが少し変化すると対応できないところが見られました。全体として県平均を2ポイント、全国を1.5ポイント下回る結果となりましたが、生徒質問紙の数学の勉強に関する質問では7~8割の生徒から前向きな回答が得られました。2年生から習熟度別少人数授業を実施しており、生徒の意欲を大切にしながら、基礎学力の定着や生徒同士の教え合いを活用し、問題解決を授業で目指してきたことが生徒の意識に表れています。今後も少人数指導のよさを活かして、まずは基礎学力の定着のために、反復練習で苦手意識をなくすなどの手立てを立てながら授業を進めていきます。